

日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 29 回 輸送容器分科会 (F3SC) 議事録

1. 実施日時 : 令和元年 7 月 29 日 (月) 10 : 00~11 : 30
2. 実施場所 : 原燃輸送(株) 本店 大会議室
3. 出席者 : (敬称略)
(出席委員) 久保 (主査), 浅見 (副主査), 高月 (幹事), 北瀬, 村松, 溝渕, 影山, 山岡
清水, 松岡, 道券 (11 名)
(代理出席委員) 吉田 (大岩代理) (1 名)
(欠席委員) 木倉, 水谷 (2 名)
(常時参加者) 広瀬, 南波, 蓬田, 樋口, 高橋 (純), 菊池 (6 名)
(欠席常時参加者) 伊藤 (賢) 高橋 (秀) (2 名)

4. 資料

- 第 29 回輸送容器分科会座席表, 議事次第
- F3SC29-1 第 28 回 輸送容器分科会議事録 (案)
- F3SC29-2 人事について (輸送容器分科会)
- F3SC29-3 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準:2013」改定の進め方について
- <参考>
- FTC79-4 “使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準”改定の中間報告

5. 概要

日本原子力学会標準委員会原子燃料サイクル専門部会 第 29 回 輸送容器分科会 (F3SC) が開催され, 「使用済燃料・混合酸化物・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準:2013」改定の進め方について議論し, 当分科会の下に作業部会を設置して検討していくこととなった。また, 委員の選任及びおよび輸送容器分科会スケジュールについて確認を行った。

6. 内容

(1) 出席者の確認

久保主査より, 14 名の委員中, 代理出席を含め 12 名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数 (10 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録 (F3SC29-1)

事務局 (高月幹事) から前回議事録の内容が説明された。コメントがある場合は, 一週間を目途に事務局に連絡することが確認された。

(3) 人事について(F3SC29-2)

a. 退任委員の報告

F3SC29-2 に示される 1 名の委員の退任が報告された。

b. 新委員の選任

F3SC29-2 に示される 1 名の委員候補が推薦された。決議の結果、新委員として選任した。

c. 常時参加者の登録解除の報告と新規登録希望の承認

F3SC29-2 に示される 3 名の常時参加者の登録解除とともに、1 名の登録希望がある旨報告があり、承認された。

(4) 「使用済燃料・混合酸化物・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：2013」改定の進め方について(F3SC29-3)

「使用済燃料・混合酸化物・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準 AESJ-SC-F006：2013」の改定の進め方について審議を行い、F3SC の下に作業部会を設定し、当該作業部会にて具体的な内容の検討を行うことが承認された。

- ・ リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) で検討している、「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準 AESJ-SC-F002:2010」の改定案に対して、輸送容器の許認可に利用しているデータを抽出し、取り入れを検討する。
- ・ AESJ-SC-F002 の中間報告に時間を要しているのは、引用文献、データを総ざらいしてレビューしているためであり、AESJ-SC-F006 の改定作業においてもレビュー済の文献、データを利用することが望ましく、事業者が判断して改正したのではなく、学会として改正することが重要である。
- ・ 作業部会は 10 名前後の規模を想定しているため、各委員は持ち帰り、作業部会委員候補を検討してもらいたい。なお、作業部会の設置に関して、必要な上位組織までオーソライズを得る必要がある。

(6) 今後の予定

- ・ 次回(第 30 回)は 11 月に開催予定。「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準 AESJ-SC-F002:2010」改定の進捗確認及び作業部会の設置内容について審議することを目的とする。

以 上